



～天候の変化に注意して育苗管理を！～

- 好天により育苗中の温度が高くなり過ぎて、しおれや葉焼けが発生すると定植後の生育遅れにつながります。温度管理に注意しましょう。
- 暖冬のため、越冬害虫の発生が早くなると考えられます。育苗期後半～定植の薬剤防除をしっかり行いましょう。

ハウス早熟栽培

定植までの害虫対策 育苗期に発生した害虫を本畑に持ち込まない！

- ・ハウス内外を除草して害虫の密度を下げる。
- ・アブラムシが発生した場合はベリマーク SC 等の薬剤を使用する。
- ・アブラムシ類は薬剤に対する抵抗性が出現しやすいため、同一系統、同一成分の薬剤は連用しない。

ワタアブラムシ



↑ 雌の無翅成虫

- ・体色は、黄色、緑色、濃緑色などさまざま
- ・雑草で越冬し早春に孵化、胎生で繁殖するため、増殖が速い
- ・茎や葉を吸汁する
- ・新葉に多数寄生すると縮れや芯どまりになる
- ・排泄物にすす病が付着し黒く汚れる

温度・灌水管理 定植圃場の環境に順化させ、苗を仕上げよう！

(1) 目標地温 … サーマスタットに頼りすぎず、必ず温度計で地温を確認する。

	地温	気温
鉢上げ～5 日目 (鉢上げ～活着)	25℃	18～25℃
6～15 日目 (活着～本葉 2 枚)	22℃	15～25℃
16～20 日目 (鉢ずらし～定植 7 日前)	20℃	15～25℃
21 日目～定植まで	15℃	13～25℃

(定植 3 日前から電熱線 OFF)

(2) 温度管理

- ・晴れた朝は、育苗トンネルの天合わせビニールを 10 c m 程度開け、日中、トンネル内気温が 30℃ を超えるようなら、徐々に広く開けて、(1) の目標気温に管理する。夜間に低温が予想される日は早めにビニールを閉めて保温する。
- ※トンネルビニールを一気に開けると湿度が抜けて葉焼けを起こすため注意する。
- ※換気の際は、冷気が直接メロン苗に当たらないように注意する。

(3) 灌水

- ・灌水は地温がまだ低い午前中に行う。灌水量は、夕方に鉢土表面が乾く程度とする。
- ※植物体には直接水がかからないようにする。

植物体に水がかかると…

低温時：乾くまでにメロンの体温が低下して生育が抑制される

高温時：つる枯病が発生しやすくなる。

- ・灌水用の水は予め温床内に入れておくなどして温めておく。

※適宜、鉢土表面の乾き程度、鉢土の重さを確認し、適切な水分量の維持に努める。

(4) 鉢ずらし

- ・鉢どうしの葉が重ならないように、生長にあわせて鉢の間隔を広げる。

※鉢ずらし後は、鉢土が乾燥しやすくなるため灌水量を増やす。



↑ 鉢ずらし後の様子

(5) 摘心 (鉢上げ後 14~20 日目)

- ・本葉 3 枚目が 10 円玉大になったら、本葉 3 枚残して親づるを摘心する。

※2枚残しだと奇形や生育のバラつきが生じた際に選ぶつるがなくなるため、3枚残して後から揃いのいい2本を残すことが理想。



↑ 摘心 7 日後の苗

(6) 定植適期 (鉢上げ後 21~30 日目)

- ・ときどき鉢から苗をはずして、根鉢の状態を確認する。
- ・終盤は天候をみながら温床のトンネルをできるだけ開けて苗に日光が当てるよう管理し、定植後の温度等の環境に慣らしていく。
- ・灌水量は少なめとし、過湿や過乾燥には注意する。
- ・白い根が根鉢に回り、崩れない状態が定植適期となる。



↑ 定植適期苗の根鉢

トンネル早熟栽培

- ・電熱線の断線には特に注意し、地温計を必ず設置する。
- ・発芽を揃えるために、播種後の播種床は 28°C~30°C を維持する。
- ・発芽が揃ったら光を十分に当て、地温を 25°C に下げ、徒長を防止する。
- ・鉢上げは、鉢土の地温が 25°C 程度になる温暖な日中に行う。
- ・根の活着をよくするために、鉢上げは適期 (発芽揃いの翌日) に行う。
- ・土壌の過乾燥・過湿に注意する。

細やかな管理をして、いい苗を作りましょう。

農作業安全に努めましょう！

問い合わせ先：

JA〇〇

庄内総合支庁〇〇農業技術普及課

TEL：023〇-〇〇-〇〇〇〇

TEL：023〇-〇〇-〇〇〇〇

作成：庄内砂丘メロン産地強化
プロジェクト会議